

築川ダム建設事業に関する公開質問状への回答(長文については主旨をかえない程度で文章を短縮しました。 敬体は常体に統一しました。)

市長予定候補者

質問	回答	芦名鉄雄	回答	桑島 博	回答	谷藤裕明	回答	斉藤 純
1、河川改修など、ダム以外の治水方法について、岩手県と専門家及び関係住民による再検討を行うことについてどのようにお考えですか	賛成	今の時代、必要かいないか話し合いで決める。		岩手県では、治水計画に際し、河川改修案や放水路案、遊水池案、地上げ案など様々な手法を検討し、地域に与える自然的・社会的影響度や経済性等を総合的に勘案し、「河川改修とダムを組み合わせる」方式が最も有利であるとの結論と聞いており、その方式が住民の生命と財産を守るため、最善の手法であると認識している。		県はこれまで築川流域の治水対策について検討した結果、ダムとダム下流域の河川改修の組合わせが最良との結論に至った。特に下流域は、年々宅地化、高度利用化が進んでいることを考慮すると、ダムと、河川改修費(用地買収費含む)が最小となるダム建設が全体計画に適合すると考える		ダム以外の「治水」について再検討することに賛成。
	反対							
	どちらとも言えない							
	わからない							
	その他							
2、将来人口見通しの低下と水需要の低下により、少なくとも盛岡市に関しては、水道水取水のため築川ダム建設事業に参加する必要はなくなったのではないかと思いますがいかがですか	参加する必要はない	無駄な経費をかけないで必要なことにお金を使う。		盛岡市は、次のような長期的かつ広域的視点で安定的な取水が可能になるよう築川ダムに利水参加している。1.[街づくりへの対応]盛岡市は北東北の拠点都市を目指し、盛岡南地区などの大規模な市街地整備をおこなっており、新たな街づくりに伴う長期的な水需要に対応する水源として必要と考えている。2.[広域対応]合併特例法の期限を意識しながら、隣接町村との合併に向けた話し合いをしている。広域合併の中心的役割を期待される本市として、安定的な水源確保が必要と考える。3.[災害リスク対応]地球の温暖化や降水量の減少等の自然現象が確実に進んでいる状況下において、現在取水量と同量の安定確保ができないにも予想される。耐湯水性の向上は水道水の安定供給継続のために安定水源の確保が必要である。また、水源汚染事故等にもダム水源は有効に機能すると考え、安定的なダム水源を持つことは、様々なメリットがある。今後、築川ダム以外にまとまった水源確保は困難である。多目的ダムの築川ダムに利水参加し、長期的、安定的な水源確保のため継続して進めるべきと考えている。		21世紀は水不足の世紀とも言われて、湯水の頻発と長期化や新産業による新たな水需要増など、盛岡の将来像(広域合併含む)を考慮した場合には、水の十分な確保は今から準備するべきである。ただし需要量については、将来の水需給計画を精査した上で総合的に見直す必要がある。		「取水」については必要ないという考えを持っている。また、盛岡市の財政の現状を考えれば非常に優先順位の低い事業と考える。
	参加すべき							
	どちらとも言えない							
	わからない							
	その他							
3、築川根田茂川流域の自然環境を保全すべきだと考えていますがいかがですか	そう思う	人間が自然を瓦解している中で、古い自然を人間が守らないで誰が守るのか。物言わぬ自然界に一生懸命生きている植物、動物、昆虫、魚がかわいそうだ。		築川・根田茂川流域は、市の自然環境調査結果やダム建設にあたっての県の環境現況調査結果では、貴重な動植物が生息生育する豊かな自然環境に恵まれた地域である。しかし、治水、利水の観点から、築川ダムは必要とされており、ダム建設は、自然環境に十分配慮して行わなければならないと考えている。県は周辺環境への影響について、環境影響評価による予測、評価を行うとともに、専門家による築川ダム周辺環境調査検討委員会での議論を経て、自然環境への負荷の軽減策を講じながら事業を進めている。工事に当たっては十分な保全措置が講じられるよう、また、工事後においては自然環境の復元、創出が図られるよう強く県に要望しており、その動向を注視しているところである。		築川流域に代表される東部地域は良好な自然が保たれているが、今後も自然環境を生かした地域形成が大切。環境へ悪影響を及ぼす要因はダム建設だけでなく、人間の営み全般が直接・間接に関わることであり、都市化の進んだ盛岡の場合、手をつけずに放置することが自然を保全できるとは言いがたい面がある。専門家や市民の皆さんの意見を聞き、自然環境への負担を最小限に抑え、湖水誕生による新たな環境創造、濁水期の下流への維持用水を流すことによる環境改善というプラス面も考慮する必要がある。		当然保全すべき環境である。
	そうは思わない							
	どちらとも言えない							
	わからない							
	その他							
4、築川ダム建設事業をどうすべきと考えますか	中止すべき	ただ自然を壊さないで、良いものと古いものも取り入れてやるのもよい。		ダム建設は、築川流域の住民の生命や財産を守り、安心して暮らせる環境を作ることから重要なことであるし、岩手県公共事業評価委員会においても、事業費削減への取り組みや環境に配慮した事業の計画・実施等の意見が付されたものの、築川ダムの事業継続が示されているので、事業の継続は妥当と考えている。		北上川地域の治水を目的とした5大ダムと一閑遊水地計画により、現在では、100年に一度の降雨で発生する洪水でも河川沿いの住民の方々は、以前より格段に安心できるようになった。今後とも、盛岡市のみならず北上流域全体の治水・利水計画の観点に立った場合、住民と社会資本の安全確保を第一義とした築川ダム建設は必然と考えられる。		築川ダム建設事業は一時凍結し、再検討する。
	一時凍結再検討							
	道路事業継続、ダム事業一時凍結							
	事業継続							
	その他							
その他、ご自由に意見をお書きください		これからの時代は自然に親しみ、環境問題にやさしい人間にならなければならないと思う。頑張りましょう。		前回調査時点での回答とは、「質問3」に対する回答の最終行に変更があるのでよろしく願います。		前回は県議の立場であり、盛岡市の計画が正しいものとの前提にたつての回答だった。「盛岡市の将来予測にあいまいな点が見受けられるので、その点を精査し見直す必要がある」に変更。		築川・根田茂川流域については、上流部を中心とした居住区域を含めできるだけ保全し、エコツーリズム・グリーンツーリズムの資源として活用。道路建設についてはよく話し合い、地域のランドデザインの中で検討。ダム建設と一括して扱わない。